

第1回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和3年1月19日（火）13:30～14:00

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府
内閣府原子力委員会
上坂委員長、佐野委員、中西委員
内閣府原子力政策担当室
實國参事官、北郷参事官

4. 議 題

- (1) 委員長代理の氏名について
- (2) 第21回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の結果概要について
- (3) 令和2年度版原子力白書の作成方針について
- (4) その他

5. 配布資料

- (1) 原子力委員会設置法
- (2) 第21回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の結果概要について
- (3) 令和2年度版原子力白書の作成方針について

6. 審議事項

（上坂委員長）それでは時間になりましたので、第1回原子力委員会定例会を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目が委員長代理の指名について、二つ目が第21回アジア原子力協力（FNCA）大臣級会合の結果概要について、三つ目が令和2年度版原子力白書の作成方針について、四つ目がその他です。

それでは事務局から御説明をお願いします。

（實國参事官）一つ目の議題は、委員長代理の指名についてです。資料1の原子力委員会設置

法を御覧ください。1 ページ目の下段にある原子力委員会設置法第4条第2項において、委員長は、あらかじめ常勤の委員のうちから、委員長に故障がある場合において委員長を代理する者を定めておかなければならないと規定されております。

上坂委員長より、委員長代理の指名をお願いいたします。

(上坂委員長) それでは法律の規定に基づき、佐野委員を委員長代理に指名いたします。

佐野委員、どうぞよろしくをお願いいたします。

(佐野委員) どうもありがとうございます。今後とも、引き続き緊張感を持ってしっかりと職務を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

(上坂委員長) ありがとうございます。

次に議題2について、事務局から説明をお願いします。

(實國参事官) 二つ目の議題は、第21回アジア原子力協力(FNCA)大臣級会合の結果概要についてです。

それでは事務局から説明をお願いします。

(北郷参事官) オンラインにて御報告申し上げます。

資料2を御覧ください。こちらに第21回アジア原子力協力フォーラム大臣級会合の結果概要についてとございます。

FNCAにおきましては、毎年12月に大臣級会合を開催し、その年の活動の総括及び政策討議を行ってきたものでございますけれども、昨年は新型コロナウイルスの流行によりオンラインでの開催になりました。しかしながら、今回オンライン会合となったことで、通常出席困難な海外の国際機関の幹部の出席がございました。具体的にはIAEA事務局長が初めて出席した形で開催できました。

今回でございますけれども、開会に当たりましては、井上科学技術政策担当大臣が開会の挨拶を行い、その開会挨拶において、グロッシー事務局長及び新型コロナウイルス流行下においてもそれぞれの組織の活動を維持しているリーダーシップに敬意を表するとともに、FNCAが2000年の発足以来、顕著な成果を上げてきたこと等について述べ、その上で、IAEAによる新型コロナウイルスの対応プロジェクト、ZODIACの立ち上げに関して、その知見共有に期待していることを述べました。

基調講演におきましては、IAEA事務局長より講演がなされました。IAEAグロッシー事務局長は、今回の新型コロナウイルスの蔓延に際し、各国に対して新型コロナウイルス検査機器の検証、またトレーニングなどを中心にした支援を行っており、支援対象国は12

6か国に及んでいることに言及しました。また、将来的対応において、不定期ながらも繰り返し発生する人畜共通感染症予防のために、原子力技術応用の観点から、IAEAが保有する技術と研究機関のネットワークを体系化したプラットフォームとしてZODIACを立ち上げる計画があり、その推進について最近、理事会の承認を得たこと、そして多くが参加することによりプラットフォームの価値が増加することとして、その参加国の増加を期待すると述べました。

これに対しまして、井上大臣から、新型コロナウイルス流行下でのIAEAの活動維持について高く評価すること、また、IAEAによる途上国の新型コロナウイルス対策支援を支持すること、FNCAとIAEAの協力関係を強化すべきこと等に言及した上で、FNCAとIAEAの将来的な協力関係の参加に関するコメントをグロッシェ事務局長に求めたところ、事務局長よりは、放射線がん治療に代表されるFNCAプロジェクト活動への評価を示しながら、IAEAとFNCAの間の協力が期待される分野として、ZODIACへの参加、がん治療を中心とする医療分野への放射線の応用、農業・食糧にも大きく影響する気候変動分野への放射線技術の応用を例示しました。

続きまして国別報告が行われまして、各国代表から新型コロナウイルス流行下における原子力研究活動や原子力発電の活動維持について報告がされました。我が国からは原発の再稼働状況、福島第一原子力発電所のALPS処理水の概況説明、新型コロナウイルス流行下での核研究開発の取組としてJAEAとQSTの例を紹介いたしました。

その次の議題が、FNCA賞の発表と授与で、今年のベスト・リサーチチームは日本の気候変動科学プロジェクトでした。また、エクセレント・チーム二つは、インドネシアの放射線加工・高分子改質プロジェクト、それからマレーシアの放射線育種プロジェクトです。

5番目に、FNCAのプロジェクト報告のセッションがございました。プロジェクトコーディネーターグループのプロジェクト統括をするコーディネーター会合の議長でありますFNCA和田日本コーディネーターから、今年のプロジェクト活動の成果が報告されました。多くの活動が先送りされている中で、既存プロジェクトの活動を維持していくことが報告されています。

そして共同コミュニケが採択されました。共同コミュニケにおきましてはFNCAプロジェクトの各種会合の正常化に向けた努力を行うこと、また医療分野でのFNCAとIAEAの将来的連携を行うこと、放射線医療の促進を行うこと、それから環境保護、気候変動対策における協力を行うこと、農業・工業分野における研究開発成果の利用の拡大を行うこと、

その他の活動についても、教育の拡大、そして人材基盤強化のための協力、パブリックコミュニティ、広報機能の拡大と、国際機関との関係強化について合意いたしました。

以上でございます。どうもありがとうございました。

(上坂委員長) ありがとうございました。それでは質疑をお願いいたします。

それでは佐野委員からよろしく申し上げます。

(佐野委員) 御説明どうもありがとうございます。

今回のF N C A大臣級会合は、コロナ禍でリモート会合にならざるを得なかったのですが、これまで大変大きな成果を上げてきたF N C Aをリモートという形であれ、引き続き開催できたことは大変よかったですと思います。

特に初めてI A E Aの事務局長が基調講演をされ、それから各国の出席レベルも大臣級が出席されて、我が方からも、井上大臣の御出席を頂いたということで、大臣級会合としては、従来と遜色のないものになったと考えます。

それから中身ですけれども、事務局が大変な苦勞をされてコミュニケを取りまとめた訳ですが、特に私が評価したいのは、今後のF N C Aの活動項目を、きれいに特定している点です。今後の問題意識を明確にコミュニケの中に書き下ろしているという点では、コーディネーター会合、それからスタディパネル等のF N C Aの活動に対して明確な指針を与えたということができると思います。

事務局の皆さん、大変お疲れさまでございました。

以上です。ありがとうございます。

(上坂委員長) 中西委員、お願いします。

(中西委員) どうも事務局の方、本当に御苦勞さまでした。

F N C Aは今、佐野委員がおっしゃったように毎年開いている会合ですし、原子力委員会が持っている唯一の会合といえると思います。グロッシーさんが来てくださったことで、新しいI A E A事務局長がどういうふうなことを考えているかというのが非常によく分かりました。

私どもが、これからしていくポイントもきちんとまとまったわけですが、私たち原子力委員会が持っている唯一の対外的な国際会議ということを考えますと、今までは皆様方の声を聞きながら手さぐりで行ってきたところがあったわけですが、的も絞られるようになってきたということで、もう少しリーダーシップといいますか、日本はこういうことをやっていきたいということを少し前面に出していてもいいのかなと思いました。

また、これは大臣級会合ではなくて、もうちょっと下の方の会合になるかもしれませんが、昨年、一昨年と、どういうことをしてきたかということのアーカイブといいますか、今まで結果の定量性についても、目に見える形で少しまとめていってもいいのではないかなと思いました。

ただ、非常にFNCAの目的に沿った委員会だったと思います。どうも御苦労さまでした。(上坂委員長) 中西委員、どうもありがとうございました。

私も昨年までFNCAの運営委員をやっていたので事情はよく分かっているのですが、リモートが幸いしてグロッシー事務局長まで御参加いただいたのはすごく大きなことです。またZODIACという彼主導のコロナ対策に放射線を応用しようというプロジェクトも御説明があり、IAEAで承認を得たということです。それを井上大臣も高く評価しているということであれば、中西委員がおっしゃったように、FNCAとIAEAの強固な連携ですね、それを日本がリードしていけるとよろしいと思いました。

それからFNCA参加の国は、全ての国が原子力発電を持っているわけではないのですね。ここにも十分書いてございますように、放射線応用ですね、医療、産業、農業応用が非常に重視されております。一昨年は核セキュリティに関する国際会合がフィリピンで開かれて、それに参加しました。それから人材育成もここで議題に上げられています。

それで今、放射線を応用したコロナの対策の様々な研究が行われているので、そういうのは今後、非常に重要になり、またこれから成果が公表されてくると思います。またコロナ対策、ウィズコロナの時代に人材育成はやはりリモートに頼らざるを得ない。だとすると、eラーニングなど教材の電子化を日本がリードすると、FNCAの加入国も活用してくれるのではないかと考えられ、貢献があるように思います。

したがって、そのような日本のリーダーシップが見えるようにFNCAの活動を盛り上げ、またIAEAと有効に協力して、この活動を盛り上げて活性化していきたいと考えております。

ほかに委員の先生方、ございますでしょうか。

ありがとうございました。それでは、議題2は以上でございます。

次に議題3について、事務局から御説明をお願いいたします。

(實國参事官) 三つ目の議題は、令和2年度版原子力白書の作成方針についてです。

それでは事務局から説明いたします。

資料第3号を御覧ください。令和2年度版原子力白書の作成方針についてです。

御案内のとおり、概要については、この原子力白書は東電福島原発事故の教訓と反省や、原子力をめぐる環境変化を踏まえた政府の取組について俯瞰的、継続的に記述し、国民への説明責任を果たすことを目的としております。特に原子力利用に関する基本的考え方を始め、各種原子力委員会決定文書に関するフォローアップや、令和2年度における政府の原子力関連施策等について記載をすることを考えております。

二つ目の構成でございますが、令和元年度版原子力白書と同様に、特集、各章、1章から8章までの各章、それから資料編の三部構成とし、関係各省の協力を仰ぎながら執筆を進めたいと思っております。

現時点での検討内容は次のとおりになります。

まず特集についてはテーマを決めました。テーマは「福島第一原発事故後10年を迎えて」です。内容は国会事故調等で指摘された課題に対する10年間の取組状況や福島の復興・再生状況を調査して、事故から学んだこと、あるいはこの10年間の我が国の変化、今後取り組んでいくことなどを原子力委員会の視点でまとめて、発信したいと考えております。

二つ目の各章構成ですけれども、これについては令和元年度版と同じ、第1章から第8章で、それぞれの章立ての項目も同じにしております。いずれも原子力利用に関する基本的考え方に基づく章立てに合わせております。

最後、資料編につきましては、必要な項目について適宜内容を更新していきます。

注意事項として、国民に向けたものとして分かりやすさ、読みやすさを今年度も追求していきたいと思っております。

また、コラムについても国民が原子力について関心を深められるような具体的な話題を掲載したいと考えております。

3番目でございますが、スケジュールについて、2月から4月にかけて原子力委員会定例会において有識者等からのヒアリングや議論を行い、本年夏を目途に原子力委員会決定をしていただく予定と考えております。

以上でございます。

(上坂委員長) ありがとうございます。それでは質疑を行います。

佐野委員から、よろしくお願いたします。

(佐野委員) 御説明どうもありがとうございます。

今回の原子力白書の特集は、3月11日に福島が、10年を迎える中で、極めて時宜を得たトピックの選定であると思っております。

恐らくコロナ禍でどのように対応しているかということも特集のトピックになり得るのだろうと思いますけれども、我が国にとっては安全性を考える上で福島10年というのが何もまして重要性を持っておりますので、私はこのテーマで掘り下げていただきたいと思います。

それから各章の章立ては、2017年の原子力利用の基本的考え方の章立てになっている訳で、基本的考え方を毎年アップデートする作業も非常に重要だと思います。

横串で、やはりコロナというのが出てくるとは思いますけれども、コロナ禍で、例えば国際協力が若干停滞しているのか、していないのか、あるいはコロナに対する先ほどのZODIACのような原子力の観点からの取組というのに伸展があるのか等、恐らくそういう話に触れられると思いますので、コラムを上手にを使って、是非このコロナ禍における原子力利用、あるいは放射線利用の現状と課題を扱っていただければと思います。

最後に質問ですけれども、今回は第1章の福島を特集の方でも取り上げるわけですが、特集における取扱いと第1章における取扱いの違いを御説明していただきたいと思います。

(實國参事官) 御質問ありがとうございます。

これまで第1章では、福島事故を踏まえた取組を中心に記載しておりました。今回、特集をするに当たって、そうしたこれまでの取組を踏まえて、どういうメッセージが出せるか、例えば原子力の信頼回復、あるいはこの日本を担う若い将来世代に対する何かメッセージ、こうした観点から原子力利用に関して何か一歩でも二歩でも進められるようなメッセージ、こういうものを含めた形で特集をまとめさせていただきたいと思っております。

(佐野委員) ありがとうございます。

(中西委員) どうもありがとうございました。

今の質問のお答えでよく分かったのですが、マグウッドさんが日本に来られたときに、安全性はものすごく考えてきているけれども、信頼を得る努力はしているのかとおっしゃっておられて、そこが一番私は印象に残ったのですが、今のお答えで、両方ともこれから考えていかれるというので、とてもいいことだと思います。

特集は福島ということで、時宜を得て、いいことだと思います。

それから1章から8章も、将来のことを考えた後、環境のことを考えて、それから技術面という三つぐらいの軸があるとしますと、そこにうまく乗っていているのではないかと思いました。

資料編ということでいろいろコラムを載せてくださるそうですけれども、これもまた時宜を得た、新しい考えとか、いろいろなトピックスを載せていただければいいと思います。どうもありがとうございました

(上坂委員長) ありがとうございます。

正にこの特集は、これは10年目ということで、非常に重要な内容を書かなければいけないと思います。ここに書いてありますように、事故調査委員会が複数ありますので、それらを、その後のフォローも含めて、まとめられればと思います。そして、原因や分析を我々で理解してまとめていく。そしてそれで終わることなく、福島復興・再生、ひいては日本全体の原子力へのメッセージを我々の方でしっかりと出していければと思います。

あと、コミュニケーションの話もあります。信頼を得ていく。私も日本原子力学会会長のときに、事故前と後でどうコミュニケーションが変わりましたかと問われました。その前はしっかり説明することがコミュニケーションだと思っていましたけれども、その後はまず、聞くことがコミュニケーションで、その次に双方のコミュニケーションがあるかなど、そういうふうに答えるようにしていました。社会心理学者の先生方からもいろいろとアドバイスを頂き、勉強して理解するようにはじめましたが、それらのこともここに反映できればと思います。

また、事務局から御説明あったように、分かりやすさ、読みやすさ、これもすごく重要であります。特集と各章、これは全てが日本の原子力にとってとても重要な内容なので、ここを一生懸命書くといっぱいのボリュームになります。それを何とか分かりやすいように、なるべく図とか表を使って科学技術のみならず社会学的な要素も入れて各章で、各ページで分かりやすく書いていけたらなど、努力してやっていきたいと思っています。

それから事務局からお話があったように、やはり若い世代にいいメッセージを送ることが一番重要です。やはり今後、CO₂削減やグリーン戦略において原子力は重要な役割があります。今後の原子力の重要な役割を担っていくのは若い世代です。彼らに本当に夢の持てるようなメッセージが送れるように、皆さんで努力して、次の原子力白書をまとめていければと考えております。

ほかに委員の方から。

(佐野委員) いろいろ多国間、二国間の協議等で原子力委員会がプレゼンしますね。その場合、原子力白書の紹介が主になるわけで、そういう意味では白書は原子力委員会の活動をきれいにまとめたものと言えると思うのですけれども、他方、私の記憶だと、各国が原子力白書に

ついてプレゼンしたというのはあまり聞いたことがなくて、各国がどういう白書を作っているのか、それからどういう章立てなのか、そのあたりもし、作業の途中で分かったら教えてください。

以上です。

(實國参事官) 今お答えできる情報をちゃんと持ち合わせていないので、調べて後ほど御説明したいと思います。

(上坂委員長) ほかに何かコメントとかございますでしょうか。

それではどうもありがとうございました。以上が議題3になります。

それでは議題4について、事務局から説明をお願いします。

(實國参事官) 今後の会議予定について御案内いたします。

次回の開催につきましては、日時が1月26日火曜日、13時30分から、場所はここ8号館6階623会議室です。議題については調整中であり、原子力委員会ホームページ等の開催案内をもってお知らせいたします。

(上坂委員長) ありがとうございました。

その他、委員から、何か御発言ございますでしょうか。

それでは御発言がないようですので、これで本日の委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。